

**NEW**  
PRODUCT  
REVIEW



## 24インチのColorEdgeベーシックモデル

EIZO | エイゾー 文・榊 信康 写真提供・藤原嘉騎

# ColorEdge CS2410

● 発売日 2019年3月19日 ● 実勢価格 53,000円前後

### CHECK 01 脱着が簡単なマグネット式遮光フードも別売で用意

外光や照明が表示面に差し込む環境ではオプションで用意されている遮光フード「CH2400」（18,000円前後）を使いたい。CS2410は測色器を内蔵しないため、測定毎にフードを外す必要があるがマグネット式なので簡単に着脱できる



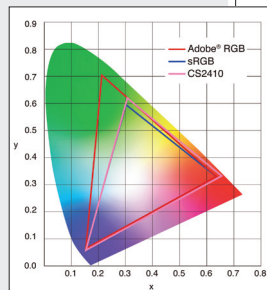
### CHECK 02 IPSパネルで色変化が少ない

CS2410にはIPS方式の液晶パネルを採用している。画面の視野角は水平・垂直とも178°を確保しており、鑑賞点の違いによる白浮きや色変化が少ない。表面はアンチグレア処理を施しており、映り込みにくく、目への負担を軽減している



### CHECK 03 sRGB色域を100%カバーする

色域は、パソコンの作業環境をはじめさまざまなデバイスでサポートされているsRGBを100%カバーしている。カラーモードにもsRGBモードを用意しており、Color Navigator7（別売）を使えばいつでもキャリブレーションを行うことが可能だ



### CHECK 04 キャリブレーションは専用センサーで行う

別売オプションのフィルター方式測色器「EX3」（17,000円前後）。これを使用することでハードウェアキャリブレーションが行える。「ColorNavigator7」（EIZOのWebサイトからダウンロード）を起動し、画面の指示に従ってセットするだけで良い



### CHECK 05 Quick Color Matchにも対応

Quick Color Matchは、3ステップの操作でディスプレイの表示とプリントの色合わせを行うユーティリティ。用紙を選び、写真をドラッグ＆ドロップし、プリントするだけで色合わせが行える

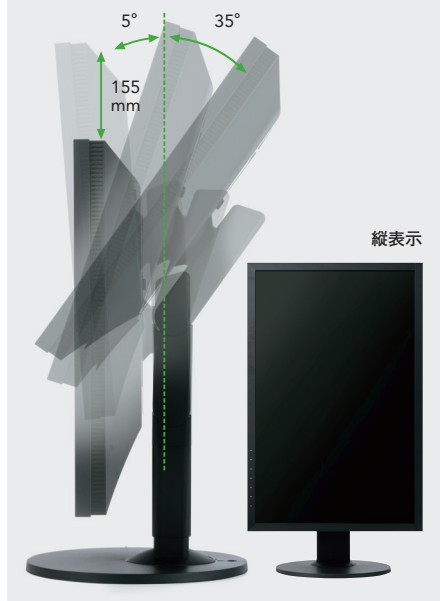


## ▶ 24インチクラスのColorEdge CSシリーズのスペック比較

	CS230	CS2410	CS2420
サイズ	23インチ	24インチ	24インチ
解像度	1,920×1,080	1,920×1,200	1,920×1,200
画素密度	96ppi	94ppi	94ppi
色域	sRGBカバー率97%	sRGBカバー率100%	Adobe RGBカバー率99%
コントラスト比	1000 : 1	1000 : 1	1000 : 1
USB端子	PC接続USB 2.0×2 背面ハブUSB 2.0×2	PC接続USB 3.1×1 側面ハブUSB 3.1×3	PC接続USB 3.1×1 側面ハブUSB 3.1×3
遮光フード	組み立て	マグネット	マグネット
標準消費電力	21W	18W	26W
外形寸法 (W×H×D)	約544×372.5~526.5×245.5mm	約554.4×396~551×245mm	約554.4×396~551×245mm
質量	約7.5kg	約7.9kg	約7.8kg
実勢価格	65,000円前後	53,000円前後	97,000円前後

### CHECK 06 さまざまな設置環境に対応できる高い可動性

スタンドはシンプルながら、チルト（手前5°～奥側35°）、スイベル（344°）、ピボット（右90°）の動きが可能。また、昇降も155mmの範囲で調整できる。90°回転することで縦表示に対応する。これだけ広い可動範囲を備えるため、大抵の設置場所に対応できるだろう



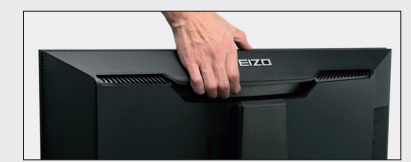
### CHECK 07 信号入力端子は3系統を用意

信号入力端子は、DisplayPort、HDMI、DVI-D 24ピンの3系統を装備している。DisplayPortとHDMI用のケーブルはパッケージに同梱されているため、ノートPCとのマルチディスプレイ環境にする場合にもケーブルを別途購入する必要がない



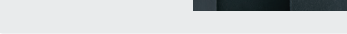
### CHECK 08 持ち運びに便利な取っ手を装備

液晶パネルの背面上部には持ち運びの際に使用できるハンドルを用意している。社内プレゼンで会議室に移動する際や、スタジオ内での使用時に重宝する。なお、昇降のロック機構はないので、アームを最大に伸ばした状態で運搬となる



### CHECK 09 USBハブの1つは急速充電に対応

USB 3.1の端子は、背面にアップストリーム1ポート、側面にダウンストリーム3ポートを装備。EX3使用時はダウンポートに接続すれば取り回しが楽になる。ダウンポートのうち1つはスマートフォンやタブレットの急速充電に対応



ColorEdgeにエントリークラスのCS2410が加わった。価格設定にかなり挑戦したモデルでなんと5万円ほどで購入できてしまう。レタッチなど色にこだわるのならColorEdgeと思っていたけど、値段が高くてとあきらめていた人にはかなり魅力的な製品だ。上位モデルに比べると基本スペックが落ちる部分もあるが、通常使用にはまったく問題のないレベル。実際に好調な滑り出しを見せているという。いまや24インチディスプレイならば1万円台から購入できるご時世だが、それはあ

くまでも質を問わなければの話だ。写真を眺めるだけならばともかく、色調整を始めとする各種のレタッチに、輝度ムラ、色ムラが散見されるディスプレイを用いるのは抵抗がある。さりとてさすがにColorEdgeは買えないという声は度々耳にする。こうした層の受け皿になっているのが、EIZOのFlexscanシリーズだ。出荷時にしっかりと調整を行い、各種カラーモードの実用性も高い。満足のできる品質が確保できる。唯一の難点は経時変化への対応力だ。Flexscanでもソフトウェアキャリ

ブレーションによる補正は可能だが、階調の縮退は避けられない。ディスプレイは長く使用するデバイスだけに、ハードウェアキャリブレーション機能の有無はやはり大きい。そこで選択肢に挙がってくるのがこのCS2410だ。これだけ安価ならば、Flexscanとの置き替えも一考する価値はある。当面はハードウェアキャリブレーションを考えていない人でも、CS2410を購入しておけば、将来的に測色器を購入するだけで長期にわたり品質を保持できるようになる。

### 写真家・藤原嘉騎がCS2410を試す ノートPCでは見えなかった色、細部が確認できる

今回、EIZO ColorEdge CS2410をノートPCに接続しレタッチを行った。使用方法は非常に簡単で、同梱のHDMIケーブルを使い、CS2410とノートPCをつなぐだけ。面倒な設定もなく、そのまますぐに使用可能だ。憧れのデュアルディスプレイがほんの数秒で完成する。24インチの大画面はノートPCとは違い、拡大表示せずとも細部が見えるので写真のセレクトや現像もしやすく、作業効率が非常に良い。さらに、ディスプレイの表面処理が光を反射しにくいアンチグレアなので外光や背後の映り込みが抑えられ、これまで以上に集中して作業を行えた。



タブレットを使ってレタッチをしている。プリント時との色が近いので安心して細かい色の調整が行えるのが良い



一般家庭にはちょうど良い24インチサイズ。フードもそれほど大きくないのが良い